

評価手法の検討について
総括

評価手法の検討について

評価全体のスケジュール

項目	1年目(平成21年度)	2年目(平成22年度)	3年目(平成23年度)	4年目(平成24年度)	5年目(平成25年度)
評価	← 評価項目の検討 →		← 調査手法・アンケート内容・対象の検討 →	← 調査・アンケート等により実施 →	← 報告書作成 →
アンケート調査(県政世論調査等)			← アンケート内容等の検討 →	← 実施 取りまとめ、分析 →	
PR、事例集等	← PR実績の取りまとめ、毎年度事例集の発行 →				
下層植生の発生状況	← 現地調査、取りまとめ →			← 取りまとめ、分析 →	
アンケート調査(森林所有者等)			← 内容等の検討 →	← 実施 取りまとめ、分析 →	
公益的機能の算定			← 内容等の検討 →	← 算定 取りまとめ、分析 →	
里山林の利活用状況			← 報告内容の検討 →	← 回答 取りまとめ、分析 →	
(都市緑化推進事業) 優良な緑化件数			← 選定基準等の検討 →	← 優良な緑化事例の選定 →	

平成23年度あいち森と緑づくり委員会の年間計画

回	時期	内容	オブザーバー	備考
1	6月6日(月)午後	・評価手法の検討 (評価手法の考え方) ・22年度事業の実績見込 ・23年度事業の取組	村松県森連会長	評価手法について、議論の進捗状況によっては、メール等を活用し意見交換を行う。
2	9月13日(火)午後	・評価手法の検討 (アンケート等の内容)	先進県の職員(高知県、兵庫県など評価手法の先進県)	
3	12月	・現地調査 ・23年度事業の進捗状況	現地関係者	事業効果のわかりやすい実施済みの箇所を選定。
4	3月	・評価手法のまとめ (評価スケジュール等) ・23年度事業の実績見込 ・24年度事業の計画	—	

あいち森と緑づくり事業 評価項目

区分	評価項目	評価項目の考え方	評価手法	資料
事業全体	県民の理解、意識			
	県民への情報提供	毎年度HPやリーフレット等により公表し認知度の向上を図る		
	PRの状況	PRの年度毎の実施状況を公表	年度ごとのPR実績を集計	全1
	事例集の作成	毎年度事業の実績から事例報告を作成	年度ごとの事例報告を作成し配布	全2
	事業全体に対する県民の理解度	森林や緑の重要性の理解度、税及び本事業の認知度、個々の事業内容の認知度、事業内容の理解度、進捗状況の認知度・理解度を内容としてアンケート	無作為抽出の県民と法人を対象にアンケート(県政モニター、県政世論調査、パブリックコメント等県の既存の意見聴取システム)を利用	全3
	事業計画に対する達成率	イベント等で定期的に事業認知度等のアンケートし、経年変化を評価	アンケート結果を年度ごとに集計	全4
	あいち森と緑づくり事業計画に対する達成率	計画面積に対する事業面積	全体計画面積に対する実績を集計	人1
	他事業を含む県全体の整備率	間伐全体の計画面積に対する事業面積	県の間伐全体計画に対して実績を集計	人2
	公益的機能の向上			
	下層植生の発生状況	下層植生の発生状況を調査	森林・林業技術センターの実態調査、定点写真観測等	人3
人工林	公益的機能の数値化	林野庁の資料を参考に、CO2吸収、水源涵養、土砂流出防止について数値化	林野庁の資料を参考に算出	人4
	費用対効果の試算	公益的機能を国の計算式を用い貨幣換算し、事業費と比較	「林野庁公共事業における事前評価マニュアル」等に基づき算出	人5
	事業に対する県民等の理解、意識	事業内容の認知度、事業内容の理解度、進捗状況の認知度・理解度等をアンケート	事業全体と併せてアンケート	人6
	森林所有者の理解、意識	事業対象となった森林所有者にアンケートし、事業の有効性、満足度、今後の期待度を調査	森林所有者を対象にアンケート	人7
	市町村担当者の理解、意識	事業対象となった市町村担当者にアンケートし、事業の有効性、満足度、今後の期待度を調査	市町村担当者を対象にアンケート	人8
	事業に対する県民等の理解、意識			
	事業に対する県民等の理解、意識			
	事業に対する県民等の理解、意識			

※資料番号に○がついているものは、アンケート調査を行うもの。

区分	評価項目	評価項目の考え方	評価手法	資料	
人工林	その他波及効果	雇用効果	設計上の人工数、森林整備事業体へのアンケート等により雇用効果を把握	設計書の集計 事業を受注した森林整備事業体へのアンケート 人9	
		森林所有者事業界の明確化	筆数、面積	調査測量結果の集計(台帳より拾う) 人11	
		団地の設定	団地数、面積等、とりまとめ活動団体数	実態数量を聞き取り等により把握、工事発注単位と団地単位との関係を事務所に聞き取り把握 人12	
		間伐材の利用状況	利用材積	実態数量を聞き取り等により把握 人13	
	里山林	あいち森と緑づくり事業計画に対する達成率	事業計画に対する達成率を箇所数及び面積で評価	全体計画の箇所数及び面積に対する実績を集計 里1	
			事業化への相談件数の推移で把握	年度毎の相談件数を集計(ダメになった理由を整理) 里2	
		里山林の維持・育成	植生の変化	植生の変化や開花促進等の状況について、活動団体による調査結果により把握	林業センサーと相談して調査方法を検討し、場合によってはハンドブックの巻末に入れる。容易に報告できる調査報告書様式を作成し、活動団体に調査を依頼 里3
			利活用状況	活動団体の年度毎の活動回数、持続性、一般参加者数	容易に報告できる調査報告書様式を作成し、活動団体に調査を依頼 里4
		事業に対する県民等の理解、意識	県民の理解、意識	事業内容の認知度、事業内容の理解度、進捗状況の認知度・理解度等をアンケート	事業全体と併せてアンケート 里5
			地域活動団体の理解、意識	事業内容の認知度、事業内容の理解度、個々の整備目的に対する達成度等をアンケート	地域活動団体へアンケート 里6
市町村担当者の理解、意識	事業の有効性、満足度、今後への期待		地域活動団体へアンケート 市町村担当者を対象にアンケート 里7		
森林所有者の理解、意識	事業の有効性、満足度、今後への期待、事業内容の認知度、事業内容の理解度、個々の整備目的に対する達成度等をアンケート		森林所有者を対象にアンケート 里8		
				里9	

※資料番号に○がついているものは、アンケート調査を行うもの。

区分	評価項目	評価項目の考え方	評価手法	資料	
都市緑化	事業全体に対する達成率 施策実施市町村数	実施する市町村を経年的に把握し、県内への広がり を把握評価する	県内都市計画区域内の51市町村で、都市 緑化推進事業の未経験市町村をゼロにす ることを目標にしており、都市緑化4事業の 内、少なくともいずれかの事業を実施。平 成30年度時点で、4事業のそれぞれの実 施市町村数の累計が、80市町村となること を目標としている	都1	
	事業に対する県民等の理解、意識		事業全体と併せてアンケート	都2	
	市町村担当者の理解、意識	事業の有効性、満足度、今後への期待、事業内容 の認知度、事業内容の理解度、個々の整備目的に 対する達成度等をアンケート	市町村担当者を対象にアンケート	都2-1	
	緑化活動参加者などの理解、意識	緑化活動の参加者を対象にアンケートを実施、緑 化に対する意識変化について把握、評価する	今後継続して調査を実施	都3	
	その他波及効果				
	市町村における緑化に関する独自の取組の展開度	市町村における緑化の助成制度などについて、各 市町村毎の取組項目のマトリックスを作成し、どのよ うに拡大するかを把握、評価する	都市緑化推進事業評価項目(案)による	都4	
	優良な緑化件数	優良な緑化のケースを選定し、事例集などの形で 取りまとめ、PRすることにより、緑化の質の向上に努 め、その件数の把握、評価を行う。	都市緑化推進事業評価項目(案)による	都5	
	事業計画に対する達成率				
	環境活動・学習	交付金交付事業数 交付金額 応募事業数の状況 事業に対する県民の理解、意識 県民の理解、意識	交付金を交付した事業数で評価 交付金の交付決定額で評価 応募のあった事業数の状況や推移で評価 事業実施団体を通じて実施する参加者アンケート により把握	実績の集計 実績の集計、要望額との差 実態数量の把握 事業全体と併せてアンケート 参加者を対象にアンケートを実施	環1 環2 環3 環4 環5

※資料番号に○がついているものは、アンケート調査を行うもの。

区分	評価項目	評価項目の考え方	評価手法	資料		
技術者養成	あいち森と緑づくり事業計画に対する達成率	事業計画に対する達成率	事業計画に対する受講者数	全体計画人数に対する実績を集計	技1	
		養成技術者の従事状況	受講者がどれだけ「あいち森と緑づくり事業」及び森林整備事業に従事したのかを調査	受講者又は森林整備事業者へアンケート	技2	
		事業に対する県民等の理解、意識	県内全体の森林整備事業者数の増加数	実態調査により把握	技3	
	あいち森と緑づくり事業計画に対する達成率	森林整備事業者の理解、意識	本研修へ従業員を派遣した事業者へアンケート調査し、研修の有効性、満足度を調査	森林整備事業者へアンケート	技4	
		受講者の理解、意識	受講者にアンケートし、カリキュラムや習得した技術についての現場での有効性、満足度を調査	森林整備事業者へアンケート	技5	
		事業に対する県民等の理解、意識	事業計画に対する達成率(導入セット数、机・椅子別導入数)	全体計画数量に対する実績を集計	木1	
	木の香る学校づくり	その他波及効果	県民の理解、意識	事業内容の認知度、事業内容の理解度、進捗状況の認知度・理解度等をアンケート	事業全体と併せてアンケート	木2
			児童・生徒、その親、教師、教育関係者の理解、意識	導入校を中心にアンケートを実施し、有効性、満足度を調査	学校関係者を対象にアンケート	木3
			製造、販売取り扱い業者の理解、意識	導入しなかった市町村も含め全ての市町村に対しアンケートを実施し、どうして利用しなかったのか、事業の問題点を調査	市町村関係者を対象にアンケート	木4
			製造、販売取り扱い業者の理解、意識	製造、販売している業者へアンケートし、事業への期待、改善点等を把握	製造、販売業者へアンケート	木5
製造、販売取り扱い業者の理解、意識			製造している業者の実態数量を聞き取り等により把握	製造している業者の実態数量を聞き取り等により把握	木6	
	製品数		実態数量を聞き取り等により把握	木7		
	県産木材の使用量		製造業者に製品あたりの木材使用量を調査する。実態数量を聞き取り等により把握	木8		

※資料番号に○がついているものは、アンケート調査を行うもの。

事業評価資料の対応表

区分	事業全体	人工林	里山林	都市緑化	環境活動・学習	技術者養成	木の香る学校づくり	
アンケート	一般県民	全3 (P.8・16)	人6 (P.10)	里5 (P.11)	都2 (P.12)	環4 (P.14)	木2 (P.15)	
	市町村関係者		人8 (P.17)	里8 (P.18)	都2-1 (P.22)		木4 (P.23)	
	学校関係者						木3 (P.25)	
	森林所有者		人7 (P.26)	里9 (P.27)				
	地域活動団体			里6・里7 (P.28)				
	事業の参加者				都3 (P.29)	環5 (P.31)		
	森林整備事業体		人10 (P.33)				技2・技4 (P.34) ・技5 (P.36)	
	机、椅子製造・販売業者						木5・木8 (P.38・39)	
実績等	県民への情報提供	全1・全2 (P.41)						
	県民の理解度	全4 (P.42)						
	事業計画に対する達成率		人1・人2 (P.44)	里1・里2 (P.51・52)	都1 (P.55)	環1・環2 ・環3 (P.58)	技1・技3 (P.59・60)	木1 (P.61)
	公益的機能の向上		人3・人4 ・人5 (P.45・46・ 47)					
	里山林の維持・育成			里3 (P.53)				
	雇用効果		人9 (P.48)					
	森林所有者事業界の明確化		人11 (P.48)					
	団地の設定		人12 (P.48・49)					
	間伐材の利用状況		人13 (P.50)					
	里山林の利活用状況			里4 (P.54)				
	市町村における緑化に関する独自の取組の展開度				都4 (P.56)			
	優良な緑化件数				都5 (P.57)			
	机、椅子の取扱業者数、事業実施業者数						木6 (P.62)	
机、椅子の製品数						木7 (P.62)		